

新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の申し入れに際して

日高川町議会議長 山本 啓司

このたび、日高川町議会は「新型コロナウイルス感染症に係る諸施策の申し入れ」として、町長あてに感染防止対策を中心に、



独自策を策定実施されており、議会としても当該予算については議決を致しております。

今回は「申し入れ」ということで、コロナ対策に関して執行部と議会が一枚岩として取り組んでいく姿勢として、諸施策の提案に至った次第であります。

なかでも、65歳未満の方へのインフルエンザワクチン接種への助成に関しては、申し入れの翌日に早速補正予算を追加上程頂き、全会一致で議決したところであり、執行部には的確な現状分析のもと、迅速な対応を頂きました。

新型コロナウイルス感染症に係る諸施策

- ① インフルエンザワクチン接種促進
- ② 避難所開設時の感染防止対策の強化
- ③ 医療・介護・福祉施設への支援金給付制度の創設
- ④ 新型コロナウイルス感染症に関する情報管理の適切化と啓発
- ⑤ 議会と執行部の協議の緊密化



秋は作物の収穫の時期。今年の米の作柄は、北海道、東北、北陸では平年以上と見込まれた。

一方、その他の地域では7月の低温、日照不足の影響で平年以下の地域があるとか。また、西日本で台風やトビイロウンカなどの影響で平年以下と見込まれた。

当地方でもウンカの被害が出た田んぼが多かった。

有害鳥獣に日々悩まされ、防護と捕獲に取り組みながらの米作り。湯気のようにわく虫に、一晩で枯らされる様になす術もない。穫り入れ目前に大きな被害と

は、何とも悔しい。国による生産数量目標の配分が廃止されて3年。食糧自給率向上の戦略方針の転換で、米生産は農家の自己責任になった。

コロナ禍でロツクダウン、人も物も出入りできない。一時的なもので、すぐに再開すると考えるのは安易だ。

かつてのコメ不足騒動、今のコロナ禍に直面して、農業を競争原理で追い立てても、食糧安全保障が確立するとは思えない。

このうえは、シカ、イノシシ、サル、鳥ども、そして害虫に喰われても、一番うまいコメを百姓がいただくのではないか。

(山本 喜平)